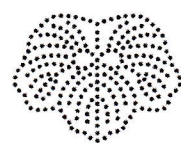


「リゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



# リゅうま伝

第83号

2026年10月26日  
高野 竜馬

「初めての手術」

「網膜剥離です。ウチでは手術ができませんので、○大病院へ今から行ってください。」

近所の眼科医にそう告げられ、○大病院へ行くと、すぐに手術の説明、そして入院へ。受診からわずか4時間で手術と入院日程が決定したのでした。

これが噂のインフォームドコンセント(説明と同意)というものか。一度持ち帰って検討します。なんて雰囲気はありません。日頃、金融商品で扱う者には到底理解できないスピードで物事が進みます。近しいDnに相談する時間すら与えられることなく、私の人生初手術が決まったの

です。そもそもほんの少し目がかすむ程度で受診したただけなのに手術まで宣告されて、くばし呆然としました。

しかも、入院初日に予定されていた手術は開始時間から時間以上も遅れます。

「ひとつとして前の手術で何かトラブルでもあったのでは？」余計な想像ばかりが膨らみます。

自分が解剖されるカエルのようにも思えてきました。が、大病院の手術室に入ってみると、テレビで見えていたより広く迫力がありすぎ。大勢の医療スタッフがいる中、車イスで運ばれる様子はまるでドラマの主人公になったような気分(笑)。

手術自体は麻酔のお蔭で痛みもなく、眼を手術される精神的な疲労のみで無事終了。

救いだ、たのは、家族や看護師さんたちの明るい対応。支えてくれる人の存在の大きさを感じました。

術後は入院直前に契約した本の朗読アプリが大活躍します。9日間の入院中になんと9冊もの本を「聴了」。

「俺たちの箱根駅伝」に大感動。目が見えなければ聞けば良いと視点を変えたのが大正解。退屈とは無縁の入院生活でした。

唯一、気がかりだった仕事も入院中、何の問題も生じなかったのは驚きです。その分、後から色々とありましたが、目には見えない不思議な力に守られていたんでしょ。うね。

そして、今回病氣になって、当たり前だと思っていた日常が実は沢山の奇跡の上に成り立っていることに気づきます。

読み書き。距離感をつかむこと。自由に出かけること。

全て両目があることです。また、いつか両目が開かなくなることも少なければリアルに感じた入院でした。

眼の病氣が意味するもの。人生そんなに長くないんだから、もっと自分を労われよ、そして「今」を生きろというサインだったのかも知れません。

他人を見る目、自分を見る目、日常を見る目を少し変えてみます。



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikai.com> x-1l fp.takano@gmail.com